

CONTENTS ◆秋のつどいⅡレポート ◆おくさわ今と昔 ◆おくさわグリーンマップ（仮称）を制作中です！  
◆グリーンサムのお庭拝見 ◆会からのお知らせ

秋のつどいⅡレポート

## 第1部 奥沢コンサート 山口聡博さんの無伴奏チェロ演奏

11月13日の午後、奥沢東地区会館での奥沢コンサートはチェロの演奏でした。奥沢で無伴奏チェロの演奏を目の当たりにする機会はそうそう無いことなので、お集まりの皆さんの期待は大きかったと思います。その気持ちにこたえて登場なさった山口さんはくだけた服装で、チェロに親しみを持てる感じがしました。晩秋の休日の午後、落ちついた音色が心にしみていきました。

演奏して下さったのは、馴染みのあるシューマンの「トロイメライ」を口切りにシューベルトの「子守唄」、テンポの速いバッハの「無伴奏組曲・舞曲」を4曲、つづいてブラームスの「ワルツ」、おしまいは土とみどりの会のためにと「花のまち」でしたが、聴衆のアンコールの声に応えバッハの舞曲となりました。

独自の奏法による新しい演奏の道を開拓し続ける山口さんは、2004年からはソロ演奏に専念していらっしゃるとのことで、チェロの魅力をもっと多くの人々に伝えたいとの思いで自主企画コンサートを始められたそうです。

お別れしたあと、山口さんの無伴奏チェロをバックに宮沢賢治の「セロひきのゴーシュ」を朗読する催しができないものだろうかと思っております。(長瀬)



## 第2部 景色盆栽の楽しみ方 —昔の盆栽と今の盆栽のちがい—

奥沢2丁目で景色盆栽の店を開店して、明日で丁度3周年になります。8年前にアメリカに渡り、栽景という盆栽を学びました。帰国後それを普及するのでは無く、日本人の感性に合い現代の生活にとけこむものを東京から発信することを考えました。身近に四季を感じられるもので生活の中に緑を取り入れようという意図の作品を東急ハンズ・ロフトに置きましたが、店員にもつくり物と思われ1ヶ月全く売れませんでした。幸いすばらしいスタッフに恵まれて年末になって急に売れ、調達に大変苦労した思い出があります。コケの生えている作品が今市場に出回っていますが、私が作ったのが最初です。アメリカに行った理由は、昭和40年代にアメリカでガーデナーが必要になり日本の造園家が招かれて、栽景という手法の盆栽が広まっていたからです。

アメリカに行く前には、造園コンサルタントとして都市計画・緑道づくりに携わりビッグサイトのデザインも担当しました。桜新町の呑川緑道・下北沢と三軒茶屋の間の北沢川緑道にも関係し、住民と共にプランを作り、目の前に計画した川ができる面白さを味わった思い出は忘れられません。今も公共の緑には深い関心を持っています。



# おくさわ今と昔

## 昔のアルバムから

奥沢4丁目21 浅枝暉雄

子供の頃からオートバイや自動車が好きで、父からもらったミニカメラ(ミノルタ16)を持ってあちこと遊びまわっておりましたので、そのころの写真を取り出してみました。

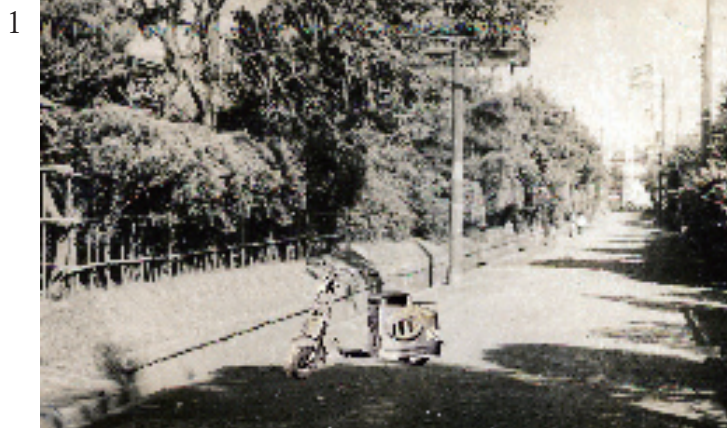
(1)は昭和27年ごろ、奥沢4丁目の家の近くの道路を環八方向から目蒲線の線路に向かって写したものです。奥の方に架線用の鉄塔が見えます。道路はまだ未舗装で、下水用のU字溝にほとんど蓋がないのがわかります。塀はほとんどが生垣でした。手前にあるのは子供のころ最初に運転させてもらったシルバービジョンのスクーター(1949年型)です。大変小さく、安定していて、13才ごろだったと思いますが、遊園地の自動車に乗るような感じで乗ってしまったのをおぼえています。ブルーの車体にクロームメッキのビジョンのマークが印象的でした。

(2)は昭和36年ごろの桜並木の通り(現、環八)を上野毛方向から野毛公園の方向に写したものです。今はビルやガソリンスタンドが並んでいますが、このころはほとんどが一般住宅でした。この道路は道幅が広く九品仏から野毛(現在の第3京浜の入口)まで桜の並木が続いていて、大変きれいな通りでした。交通量も多くはなかったので、車の運転練習に良く使わせてもらいました。写真の奥の方に並木の最後の木が写っています。その先、道路は左にカーブしていて、等々力溪谷の鉄橋を通り、尾山台、九品仏を経て田園調布の大踏切に出ます。

(3)は同じ36年ごろ、等々力溪谷が多摩川に合流する場所にあった河川敷の駐車場を丸子多摩川の方向に写したものです。川の様子は今と変わらないようですが、対岸に高い建物がほとんど見あたりません。手前のミニカーが当時乗っていた車で、(マツダクーペ)その奥にいすずのヒルマン(初期型)等が見えます。

(4)は同じころの田園調布駅前ロータリーの噴水の様子で、白い木製の柵に添ってバラが植えてあったようです。写真のすぐ右側が駅舎につながり、左方向が奥沢方面となります。

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。(今回は、写真を掲載するために長くお住まいの方のお話のみとさせていただきます。)



# おくさわグリーンマップ(仮称)を制作中です！



立派な木



みんなの森



きれいな花



庭園



みんなの公園



歴史あり



安らぎの場



まちの広場



美術館



アートスポット

土とみどりを守る会では、2005年の奥沢地区祭りにて「おくさわグリーンマップ(仮称)」制作の最初の提案をさせていただきました。そしてこのたび、世田谷区の「地域コミュニティ活性化支援補助事業」の申請を出しましたところ、「おくさわグリーンマップ(仮称)」の印刷のための補助金を受けることができました。2005年11月に助成が決定し、年度予算の関係で2006年4月までに完成させる、という大変に厳しいスケジュールなのですが、皆様のご協力を得て、何とか最初のマップを完成させたいと考えております。

グリーンマップをつくる目的は、地域に住まわれている方々が、その地域の良いところを再発見し、その情報を皆で共有することにあります。グリーンマップは、樹木や花などのみどりに関する情報のみならず、文化、歴史、そしてお店などの情報を含む、地域で豊かに暮らすために役立つ情報を、世界共通のアイコン(絵文字)を使って一枚の地図にまとめる、という世界規模の活動です。出来上がった地図は世界登録されますので、地域が世界とつながります。1992年に一番最初のグリーンマップがニューヨークで作られ、これまでに世界で42カ国、日本では約30の地域でグリーンマップが作られています。その地域にグリーンマップがあるということは、そこが暮らしやすいところであるという証でもあります。

おくさわグリーンマップ(仮称)では、今の奥沢あたりについての情報をまとめるほか、昔の奥沢のようすについての情報も掲載することで、特徴を出すことを予定しています。おくさわグリーンマップ(仮称)が対象とする範囲は、当初、奥沢1丁目～3丁目のあたりを中心とする予定でしたが、奥沢8丁目までひろげ、玉川田園調布および東玉川の一部、自由が丘の一部も含めることを検討しています。範囲がひろがったことから、地図の名称が変更となる可能性もあります。出来上がったマップは、対象とする地域にお住まいの方々などに無料でお配りすることを予定しています。

まわりの絵文字は、世界共通の125個のグリーンマップアイコンの中から選んだ、おくさわグリーンマップ(仮称)で使用する予定のアイコンの一部です。



2006年1月22日に奥沢小学校で開催された「奥沢地区祭り」土とみどりを守る会のブースにて、おくさわグリーンマップの制作よびかけをおこないました。アンケート形式で、たくさんの方に奥沢のお気に入りの場所を教えてくださいました。

おくさわグリーンマップ問い合わせ先  
土とみどりを守る会(担当:堀内)

電話 03-5701-5901

メール horiuchi@tamabi.ac.jp



リユース(再利用)



コンポスト



駐輪場



車いすOK



有機作物・自然食品店



自然食レストラン・カフェ



たすけあい



学校・図書館



悲しい場所



交通危険ゾーン

## グリーンサムのお庭拝見 vol.2

会の推奨樹木になっている大木の山桃を眺めながら歩いていると花崗岩と山茶花の垣根越しに水音が聞こえてくる。玄関先の樹齢 130 年以上の椎の木を見上げつつ今回は 2 丁目 31 番地の関家を訪問しました。

水音の源は池の水(井戸水)を循環している音で池には 30 年以上も住んでいる白と緋の鯉 4 匹とその子供 4 匹が優雅に泳いでいる。池の左にドウダンツツジ、右には 4 本の幹が網目のように絡まっている姫クチナシが丸く刈り込まれている。いずれも樹齢 100 年以上とか。池の上の方を見ると枯山水がある。その枯山水と池の間に橋があり、歩いていくと関さんをモデルにして彫られたというお地藏さんが穏やかな顔で佇んでいる。周りに寒椿・モッコク・白樺・隠れ蓑・山茶花と鳥

が運んでくれたモミジ・万両・クチナシなどがある。玄関ドア前に大雪で倒れ幹にセメントが入っている樹齢 130 年以上の白梅が、3 本の柱に支えられてゆったりと枝を伸ばしている。毎年この白梅の幹が腐らないようにと手当をしている。それに答えるように甘くてやさしい香りは 2 階まで届き心を和ませてくれる。実は 2 斗以上も採れるので焼酎漬にして子供達に配り池に落ちると鯉のエサになっている。庭の中で一番の思い入れは「梅」である。それはお母様のお名前であり 3 本ある梅は三男の関さんを表しているからである。

95 才の関さんは今でも「お母さんだったらどういうふうにしたらどうか」と考えながら行動をしていると語る。

すべてを抱えこんでくれているような苔むした白梅を中心にゆっくりと時は刻まれている。そんな趣のあるお庭でした。

(遠藤)

— 1 ページからの続き —

帰国後、もともと人生は応用であるとの考えから、野山で美しいと感じる自然の美・色のバランスなどすべてを取り込み、新芽・新緑・紅葉・立枯れと移る生活の中の自然の豊かさや人間の感情を、植物を使って表現することを提案し、これを景色盆栽と名付けました。日本古来の生活の中に流れて来た伝統が失われつつある今、日本で盆栽という形を残してくれた先人の技術を引き継いで今の生活に合ったものを作り出す、これが景色盆栽です。植物の伝統を維持し、器も伝統技術による焼物を使って地場産業を守ることに協力しています。今は基本を守りつつ新しいことを提案する時代になっています。景色盆栽という場で、暮らしの中に植物を加えることによって生活が豊かになるという提案を続けたいと思っています。

盆栽というと和のイメージがあって和の植物という観念があるが、日本原産と思っていても海外から来ているものも多く、基本的にこだわる必要はありません。ハーブでも雑草と呼ばれる植物でも、盆栽としてその植物を育てる楽しみを味わってほしい。植物との関わりが増え、人類にとって大切な植物を育てる心を養い感動を得てより楽しくなります。育てるための技術は必要ですが、まず 1 年間様子を見ながら育てる事から始めるのが良いと思います。

植物が生きるために基本的に必要なものは水と空気と光です。光は不足すると間延びするが、光合成をして育てる方法もあります。

●土 硬質赤玉(硬いので保水性が良く、養分も保つ)と富士砂(溶岩。炭と同じ効果がある)を使っています。売っている土が悪いわけではないがその木が育ってきた土ではないし、培養土はすぐに大きくなりすぎます。植物は甘やかしてはいけません。

1 年間この鉢の中で生体系をつくり生きていく事を覚えさせます。根ぐされの原因は土にあります。

●水やり 秋冬は休眠期に入るので芽はゆっくり成長するから 3 日～7 日に一度でよい。夏は水やりが必要です。

●肥料 芽が出る春と実がみのる秋にやります。夏は光合成するため肥料も必要だがやりすぎると根を痛めるおそれがあります。

●コケ 数えたら 50 種以上のコケが奥沢にあるでしょう。コケは根が無いので孢子で増えます。日が当たりすぎて黒くなくても生きているから、日陰に置けば青々としてきます。白くなるのは葉緑素が飛んでしまうからで、光の当たり過ぎです。コケは常に緑色のイメージですが 11 月～3 月は茶色になります。コケは小さな空間の中で様々な景色をつくり出せます。

●植え替え 3 年から 5 年は植え替えしないで育てられます。下葉が落ちるのはむれるから、葉の色が変わって元気が無くなるのは落ちた後に又同じ水を吸うので酸性が強すぎるからです。水はけをよくすることが大切です。

小林さんは長野県小諸出身・国土建設学院卒業の方で、景色盆栽の制作・販売・教室の他個展・雑誌・テレビなどで御活躍の盆栽作家です。奥沢 2 丁目の住宅街の中に安らぎの空間をつくっているお店はとてもステキです。(柳島)

## 会からのお知らせ

●恒例の新春のつどいは 2 月 4 日(土)1 時半から奥沢東地区会館で開催します。第 1 部の奥沢コンサートは石井八重さん(奥沢 2 丁目在住)による琵琶の演奏です。お正月にふさわしいコンサートになることでしょう。第 2 部は「奥沢の昔を語る」戦前からお住まいの方々に昔の奥沢の珍しいお話をうかがう楽しい座談会です。どうぞお出掛けください。

●ことしの奥沢新春地区まつりは 1 月 22 日(日)に奥沢小学校で開催されました。昨年に続き、土とみどりを守る会も参加して、奥沢グリーンマップの展示とチェリーセージの苗頒布・ハーブティーのおもてなしをしました。

### 土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢 2-41-2 柳島尚子 3718-8558